

# 網走ほんりゅう教組

第437号  
網走教職員組合  
〒090-0052  
北海道北見市北進町4丁目5-31  
TEL0157(31)7551  
FAX 0157(31)7559  
ab-ky@forest.ocn.ne.jp  
9月27日

## スタート集会 子どもたちに必要だった教育を

及びます。全年ではありませぬが、独自に少人数学級を導入したのが十三県。

九月三日(土)十三時より、本部にて「ゆきとどいた教育を求め全国署名」の網走教組スタート集会が行われました。  
スタート集会に先立ち、十一時から、コープさっぽろ三輪店前にて街頭署名活動を行い、道教組から梶木先生、そして、大坪先生、佐野先生、勝田先生、山本先生、戸松先生、和田の七名が参加し、「三五人以下学級の実現」「保護者負担の軽減」「教育予算増額」「高校無償化」などを訴えました。全体で一〇二筆を集めまますの滑り出しでした。

街頭署名終了後、昼食を挟んでスタート集会が開始されました。署名に参加した六名に上田先生、若狭先生が加わり、八名の参加で行われました。  
初めに大坪委員長より挨拶があり、次に梶木先生より情勢の報告が行われました。教育行政が教育内容への介入を強める中で、本来の務めである教育の条件整備はおざなりにされる実態が浮かび上がってきた。三五人学級に背を向け続ける安倍政権に対して、各府県の努力により、小中学校の全学年で少人数学級を実現したのは二〇府県に

目標	道教組 二〇,〇〇〇筆
網走教組	一,〇〇〇筆
集約日	①十月一日(土) 中央委員会
	②十一月十二日(土) 支部代⑥
	③最終十二月三日(土) 支部代⑦

最後に、各支部から今年度の取り組みの見通しが話されました。網走支部では、個人的に行わざるを得ない状況はあるが、高教組に声を掛けて進めていきたいとのことでした。遠軽・紋別支部からは、高教組や新婦人に声を掛けたい。北見支部では、高教組と合同で署名活動に取り組みで行くと筆に向けて、元氣の出る取り組みとなるよう、できるだけ集団的に署名に取り組みで行くことを確認してスタート集会を終了しました。

## 道教組中央委員会に参加して

9月10日(土)に行われた「道教組第29回中央委員会」に代議員として参加してきました。冒頭の道教組委員長あいさつでは、道教組結成当初の「ぶれず、しっかりと土台」について語られました。子どもや教職員が追い込まれている状況の中、結成当初の「揺るぎない原点を思いだし、見直そう」「道教組を語り合おう」そして、「時間や手間はかかっても、確信を持って、学校づくり・地域づくりを進めていこう」という力強い呼びかけがあり、中央委員会が始まりました。私は、討議の柱①「協力・共同の学校づくり」に関わって、網走教組で行っている「学校づくり連続学習会」について報告しました。この「学校づくり学習会」は、「学校職員評価制度」が現場に下ろされてきたことから、「評価制度に負けない学校づくり」をどのように進めていけばよいのかを、組合員みんなで考えていくという目的で始まったこと、合宿研において、たくさんの組合員から学校づくりについて語られていること、教育に降りかかってくる困難に対して、10年先、20年先を見据えて、今私たちにできることを考えていかなければならないということ報告しました。

また、「学校づくり」と同じように大切な「組合運動づくり」についても学習し直すという執行部の提案を受け、その学習会への期待についても話してきました。冒頭の委員長あいさつでもあった、揺るぎない思いや組合への熱い情熱が、網走教組でも、結成当初から何度も語られ、受け継がれてきました。諸先輩が退職され、その思いが語られる機会も少なくなっている今、もう一度原点を思い出し、何をよりどころにして、何に確信を持って組合運動を進めていけばよいのかを学び直そうという提案は、子ども、教職員が追い込まれている今、本当に必要なことだと思います。網走教組での学習会が、「揺るぎないもの」をつかむきっかけになることを期待していると共に、道教組でも、「学校づくり・組合運動づくり」を語り合える場をつくってほしいという願いをして、私の発言を終えました。  
全道各地で奮闘されている先生方の話もたくさん聞くことができ、元氣をもらって帰ってくることができました。このような機会をいただけたことに感謝します。ありがとうございました。  
文責(遠軽・紋別支部 若狭先生)

生レポートで、定番の朝顔、ヘチマなどをどのような基準で何を意図しての選定なのか話題となりました。瓢箪が教材として面白いということや、昨今は苗の入手がなかなか困難であることなど色々な中身が交流できました。「今どきの中学生三年生の実態」―上田が提出したレポートで、学習の意欲喚起の難しさや、失敗を恐れ、後ろ向き授業参加ばかりという生徒の状況に苦慮することが出されました。これについて、教師の視点を一度外し、子ども目線から「どうなれば学習しやすくなるのかなど率直に意見を出させ一緒に考える姿勢が大切だ」という話がなされました。他の「不登校と向き合うには」「特別支援を要する児童の成長」というレポートも含め有意義な交流でした。  
今回は、評価の時期で参加しにくいことや、未組の先生を誘える取り組みとなるよう日頃の対話が活きるよう検討すること、上げられました。



オホーツク  
**まなびバ**  
一学び場一  
第47回

九月十日土曜日の今年度、三回目の「まなびバ」がありました。道教組の中央委員会と重なり、参加者は四名でした。  
出されたレポートの本数は四本でした。「理科で扱う植物教材の疑問点」―これは勝田先生